

平成15年度

帯広市文化賞
文化奨励賞

帯広市教育委員会

帯広市文化賞受賞者



ふじ ま
藤 間 まこと

(73歳)

《受賞理由》

氏は、幼少から日本舞踊一筋に研鑽を積まれ、昭和40年に35歳という若さで東京国立劇場の舞台に立たれるなど、数多くの舞踊公演に出演され、その卓越した技能は斯界から高い評価を受けておられます。

また、氏は後進の育成にも並々ならぬ情熱を注がれ、帯広市内のみならず、広尾町や足寄町、芽室町にも稽古場を設け、これまでに師範6名、名取100名を輩出するなど伝統芸能の普及と発展に尽力されてきております。

さらに、十勝管内の老人ホームや福祉施設への慰問を続ける一方、平成12年には文化交流使節団の一員としてモンゴル、中国へ赴いて日本舞踊を披露するなど、社会貢献も精力的に行っておられます。

このような氏の永年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するものであります。

《略 歴》

- 昭和5年 本別町に生れる。
- 昭和17年 帯広市に移住し、若柳吉英満師に師事する。
- 昭和25年 帯広市、広尾町、足寄町に日本舞踊稽古場を設ける。
- 昭和31年 家元藤間勘右衛門丈より藤間真を許名される。
- 昭和40年 藤間眞澄師と東京国立劇場にて『龍虎』を踊る。
- 昭和45年 故藤間藤光師に師事し師範となる。
- 平成10年 帯広市民劇場賞受賞
- 平成12年 特定非営利活動法人十勝文化会議十勝文化特別賞受賞
文化交流使節団員としてモンゴル、中国に赴く。

帯広市文化賞受賞者



やま かげ すすむ
山 陰 進

(69歳)

《受賞理由》

氏は、若くから句作を始められ、その鋭い感性によって風土の情景や生命あるものの一瞬をとらえた作品を数多く発表されており、これまで3冊の句集を上梓されておりますが、特に、昨年刊行された句集「一季集・冬」は斯界から高い評価を受けておられます。

また、豊富な知識と明晰な理論に裏づけされた俳句評論では、広範な読者の支持を得る一方、「十勝俳句史年表」（1989年）では、十勝の俳壇百年の歴史を体系付けたとされています。

さらに、俳誌「領海」を主宰するとともに、東北海道現代俳句協会事務局長、市民文芸編集委員長を歴任するなど、後進の育成にも情熱を注がれ、地域俳壇の向上発展に尽力されてきております。

このような氏の永年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するものであります。

《略 歴》

- 昭和 9 年 陸別町に生れる。
- 昭和23年 句作を始める。
- 昭和29年 久保洋青「えぞにう」入会
以降、「とかち」「でるた」「寒雷」「緋衣」「沖」等に所属
- 昭和50年 「氷原帯」入会
- 昭和53年 句集「一季抄」刊行
- 昭和62年 句集「一季集塵」刊行
- 平成 9 年 特定非営利活動法人十勝文化会議十勝文化奨励賞受賞
- 平成12年 市民文芸賞受賞
- 平成14年 市民文芸編集委員長に就任
句集「一季集・冬」刊行